

令和 4 年 1 月 13 日

(仮称) JRE 鏡野風力発電事業 計画段階環境配慮書に対する意見書

ジャパン・リニューアブル・エナジー株式会社
代表取締役 中川 隆久 様

日本野鳥の会岡山県支部
支部長 丸山健司
〒704-8182 岡山県岡山市東区広谷 458-1

日本イヌワシ研究会
岡山地区委員 齊木 孝
〒709-0514 岡山県和気郡和気町佐伯 366-1

公益財団法人日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

現在、貴社が公告・縦覧および住民意見を募集している（仮称）JRE 鏡野風力発電事業「計画段階環境配慮書」（以下、配慮書という）に対して、自然環境保全の観点から下記のとおり意見を述べる。

記

○ 希少猛禽類の生息地

1. イヌワシ

イヌワシは国の天然記念物や国内希少野生動植物種、環境省版レッドリストで絶滅危惧 I B 類 (EN) および岡山県レッドデータブック 2020 で絶滅危惧 I 類に指定され、特に中国山地においては、生息数が極めて少なく、また、生息地が限られている。事業実施想定区域（以下、計画地という）は「環境省希少猛禽類調査」のイヌワシ生息確認域に接しており、当該調査では、鳥取県側に生息するイヌワシが岡山県側にも飛来し写真撮影もされており、計画地への飛来も確認されていることから、計画地に風力発電施設を建設するとバードストライクが発生する可能性が高い。配慮書の評価欄(261 頁)には「クマタカ等の猛禽類」について記載されているが、イヌワシについてもより優先的に「猛禽類保護の進め方(改訂版)」に準拠して、生息・飛来状況について十分な現地調査(繁殖状況によって行動が変わるため、生息状況把握には複数年の調査が必要)を行い、生息や飛来が確認された場合は、バードストライクが発生する可能性が高いため、希少猛禽類であるイヌワシの保全の観点から、計画を中止すべきである。

2. クマタカ

計画地は「環境省希少猛禽類調査」のクマタカ生息確認域内にあり、国内希少野生動植物種、環境省版レッドリストで絶滅危惧 I B 類 (EN) および岡山県レッドデータブック 2020 で絶滅危惧 I 類に指定されているクマタカが尾根上を飛行する姿が確認されるなど複

数の生息が確認されている。計画地に風車を建設した場合には、バードストライクが起こる可能性が高い。また、風車を忌避して営巣放棄や、繁殖成績が下がる可能性が考えられる。希少猛禽類であるクマタカの保全の観点から、計画を中止すべきである。

3. ヨタカとコノハズク

計画地の付近では、環境省レッドリストで準絶滅危惧（NT）および岡山県版レッドデータブック 2020 で絶滅危惧Ⅱ類に指定されているヨタカの生息、そして岡山県版レッドデータブック 2020 で絶滅危惧Ⅰ類に指定されているコノハズクの生息が確認されている。三重県では風力発電所の建設によりヨタカやフクロウなどの夜行性鳥類が全く観察されなくなったことが報告されており（武田 2016）、本区域でも風力発電所の建設によりヨタカなどの夜行性鳥類が生息できなくなる可能性が高いため、計画を中止すべきである。

4. 猛禽類および鳥類の渡りについて

秋の渡り時期に、山陰側を通過するノスリ、ハチクマを日本イヌワシ研究会岡山地区の会員が観察している。計画地を通過する可能性が高いため猛禽類の渡りルートの調査が必要である。計画地周辺で渡りルートが確認された場合は計画を中止すべきである。近年、夏鳥として飛来するヤイロチョウの日本海側ルートの存在が明らかにされつつあり、計画地の上空を通過する可能性があるため、移動時間帯である夜間におけるフライトコール調査を行うべきである。調査の結果フライトコールが確認された場合は計画を中止すべきである。

5. ブナ林の保全について

計画地は、大空山のブナ林区域が含まれている。また、環境省が定めている植生自然度 9 の区域に道路造成・拡幅工事を行い膨大な樹木の伐採が予定されている。ブナ林は生物多様性を保持する上で非常に重要な森林で、多くの鳥類の生息地であり、二酸化炭素の吸収源である。風力発電所を建設して、これらの重要な自然資源を喪失させるのは本末転倒である。これら豊かな自然を保全し、後世まで伝えていくことは我々に残された重要な課題である。したがって、本区域での計画は中止すべきである。

以上